

多摩地区での長期モニタリング調査で分かった アカハライモリの水場利用と移動分散

荒井寛¹・金原功²・中村浩司³・児玉雅章²・多田諭⁴・松村哲³
¹多摩動物公園、²井の頭自然文化園、³葛西臨海水族園、⁴元葛西臨海水族園

都立動物園水族園は多摩地区の局所的生息地において、2002 年からアカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* の保全活動をしている。17 年間に、主に水場で捕獲された成体を、腹部斑紋などによって個体識別し、標識再捕獲法により調査した。多くの個体は特定の水場から、ほとんど、あるいはまったく移動することはなかったが、一部の個体では 100m 以上の移動が認められ、分散と考えられるような事例も含まれていた。周年水場を利用し、とくに産卵期には集中していたことから、本種の保全を考えると、水場およびそこから少なくともおよそ数 100m の範囲内の陸上環境を保全することが重要であり、水場での大量捕獲行為は絶滅に瀕する本種の脅威であると考えた。また、工事などのために水場にいた個体を人為的に移動させた後の行動も紹介する。ここ数年は生息個体数が減少傾向であるが、減少要因はわかっていない。